

魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 伊美 聡 所属: 大阪府立和泉支援学校 記録日: 2017 年 2 月 11 日

キーワード: 「知的障がい・自閉症」「社会生活」「コミュニケーション」

【対象児の情報】

・学年 中学部2年 男子生徒

・障害名 知的障がいを伴う自閉症

・障害と困難の内容

- 発語に困難があり、意思伝達の手段が限られていた。文字盤や絵カードなどの取り組みも行われてきていた。ただ入学当初は、「伝わった」実感がもちにくい日常の中で、自発的に伝えようとする場面が少なかった。
- 昨年度実施「魔法の種」プロジェクトからの取り組みを通じて、周りとのかかわりが増えてきた。

【活動目的】

・当初のねらい

『安心して取り組むことができる場所で、対象児が取り組みやすい方法を使って、伝える、伝わる経験を重ね、周囲との関わりの意欲を高める。』

・実施期間

2016年6月1日～2月28日

・実施者

伊美聡

・実施者と対象児の関係

対象児が所属しているクラスの担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

- 対象児は発語が困難で、小学校時代より保護者作成の絵カードや文字盤を活用し周囲と関わってきたが、入学当初学校ではそれらを使うことはほぼなかった。また使った場合も教師にのみ使っており、そのため入学当初の対象児は一人で行動していたことが多かった。
- 昨年度実施の「魔法の宿題プロジェクト」から対象児は参加することとなり、会の進行を一人で行う取り組みでは、自ら会の進行を行うまでに成長した。また、ふりかえり時の発表での活用の取り組みでは、単語から複数単語を使うようになり、より具体的にふりかえりを伝えようとするようになった。それらの取り組みによりクラスメートからの反応も見られるようになり、司会を一人で行う取り組みではクラスメートの名前を呼ぶ順番をわざと間違え、クラスメートからツッコまれクラス中が笑いに包まれるというエピソードも見られるなど、クラスメートとかかわろうとする様子が少しずつみられるようになった。
- ただ「魔法の種プロジェクト」開始前でも、かかわる相手は依然としてクラスメートがほとんどであった。また、クラスメートとのやり取りの場面も、帰りの会でのふりかえり中心であったため、授業場面やクラス以外の同学年の友人とかかわりの場面ではあまり見られない状態が続いていた。そのため、学校外でのかかわりにおいて、対象児自らが学校外の人とかかわることがほとんどなかった。

・活動の具体的内容

【1】「朝、帰りの会の司会を一人で行う」

…朝の会や帰りの会で、司会をする場面での“DropTalkHD”の活用

- 本校でも、朝の会・帰りの会があり、現在では10日に1回ほど対象児に司会が回ってくる。
入学当初司会時は、担任が横につき担任の言葉で進められていた。クラスメートを指名する時、対象児はクラスメートのほうに手を向け、担任が名前を呼ぶという形で進めていた。そこで、そこで、朝の会・帰りの会での流れを担当が”DropTalkHD”にまとめ、対象児が司会時にそれを使うことで「伝わる」経験を重ねる取り組みを「魔法の種」プロジェクトから継続して進めてきた。
- 朝の会・帰りの会を並べたキャンバスをそれぞれ作り、加えて音声付きで並べた。”DropTalkHD”にない画像は担当者が撮影した。また、クラスメートや担任を指名する時に使うキャンバスも作り、会の進行に必要なものをまとめた。

【2】「ふりかえりをみんなに伝える」

…帰りの会での一日をふりかえる場面での“TalkingAid”の活用

- 入学当初は、保護者作成の文字盤等で思いを伝えていた。帰りの会でのふりかえりの発表においても、その文字盤で楽しかった授業名を並べ、それを担任が発表していた。
- そこで、入力した文字の音が出る“TalkingAid”を使って、ふりかえりの発表を昨年度の「魔法の種」プロジェクトから継続して行ってきた。昨年度の活動開始当初は、楽しかった授業名のみを並べることが多かったが、次第に楽しかった授業名とその授業で行った内容というように、複数の単語を並べて伝えることが多くなってきた。

【3】「家での様子をみんなに伝える」

…対象児の好きな猫の様子をまとめた日記作成場面での“Keynote”の活用

- 対象児が好きな家で飼っている猫の様子を“Keynote”で作成し、クラスメートに伝える取り組みを今年度から開始した。
- 2台貸してもらっているiPadのうち1台を日記作成用として対象児の保護者の方にお渡しした。対象児も保護者の方にも安心して使ってもらえるよう、文字入力だけではなく写真撮影、挿入も一つのスライド内で簡単に行える、“Keynote”を使い日記作成を行った。また、学校で使っているもう1台のiPadと“Keynote”の内容を共有しており、その一台から日記画面を印刷し、それをクラスメートが見てもらえるよう、ラジカセの前に張り付けた。

【4】12月での居住地校交流での活用

…自己紹介を行う場面での“TalkingAid”の活用

- 対象児は、12月に行われる居住の校区の中学校で行われた居住地校交流（クリスマス会）に参加することになり、そこで”TalkingAid”を使って自己紹介を行うことを考え、練習を開始した。

・活用したアプリ

		
DropTalkHD	TalkingAid	Keynote

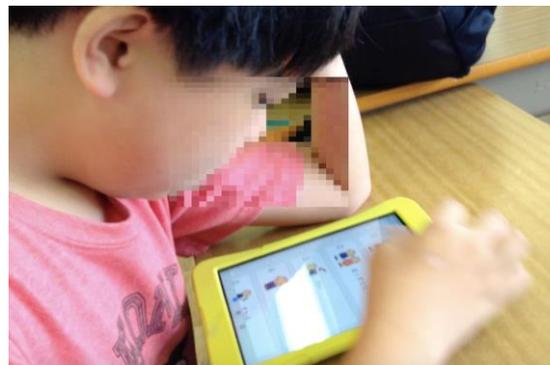
・対象児の事後の変化

【1】「朝、帰りの会の司会を一人で行う」

- 昨年度から活用していることもあり、アプリの立ち上げから、場に応じたキャンパスの変更、終了時のスリープ状態から端末を片付ける一連の動作を一人で行うようになった。ただ、端末から出る音量が小さいため、対象児の座っている席から遠いクラスメートには聞こえにくいということが起きていた。そこで今年度からは、教室にあったBluetooth対応のラジカセを使い、無線で端末の音を出すこととした。すると対象児は、自分でラジカセの電源をつけ、音を出そうとすることがたびたびみられるようになった。



対象児が司会時に使用したキャンパスの一部



対象児が“DroptalkHD”を使っている様子

【2】「ふりかえりをみんなに伝える」

- 今年度もふりかえりの発表時は、楽しかった授業名と授業内容と複数の単語を並べ伝えることが多くみられた。

ただ、今年度の活動開始当初、対象児はキーボードを押したときに出る音を楽しむ様子が見られた。そのため、入力中は音が出ず、再生ボタンを押すことで音が出るように設定を変えた。また、一緒に担任をしていただいている方にも協力してもらい、文章で入力するよう伝えてきた。そうすることで、楽しかった授業について文章で説明したり、次にしてみたいことなど、ふりかえりの内容が多様になってきた。



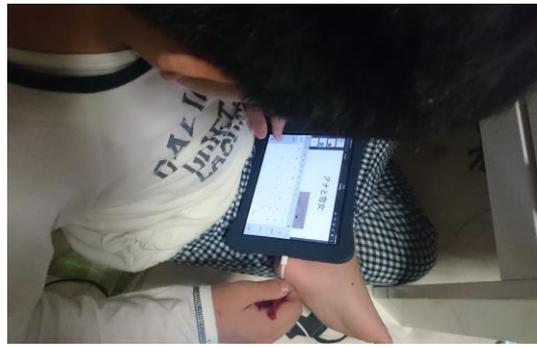
入力中の様子



入力した内容（左2つ 2016年12月入力 左 2017年1月入力）

【3】「家での様子をみんなに伝える」

- 活動開始当初は、猫の様子を伝える内容と猫の様子の写真を張り付けたものであった。内容は、単語で表されることもあったが、それらをクラスメートが見て感想をもらうことで、対象児はうれしそうな様子を見せることがあった。



家での入力の様子



教室内に張り付けた日記

●現在では、内容が運動会の練習時の感想や体調が不調であることなど広がってきた。また、予測変換機能を使うことで漢字も入力されるようになり、より伝わるようになってきた。



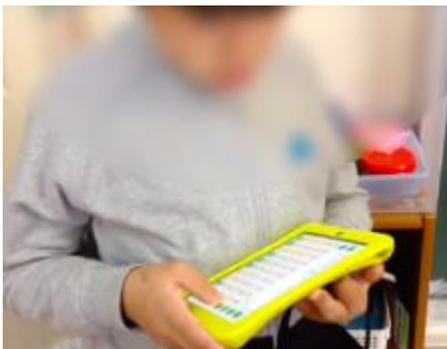
2016年7月入力



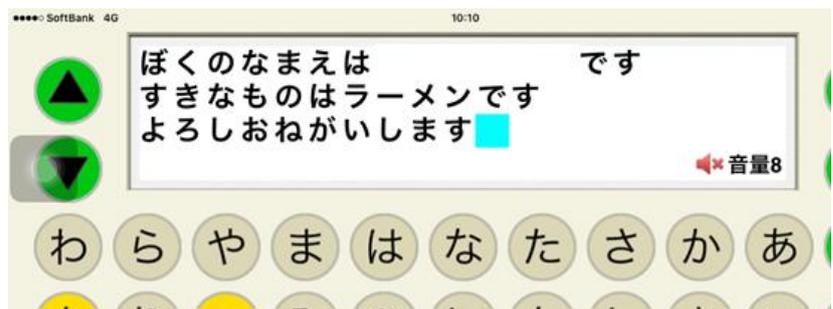
2016年10月入力

【4】12月での居住地校交流での活用

●練習開始当初は、名前を入力するだけでも時間がかかっていた。そこで、クラスメートにも練習を見てもらいながら何回も練習を行った。当日は、自己紹介の場面が急に訪れたが、素早く入力し、参加していた児童生徒や教師の前50人以上の前で発表することができた。



自己紹介時の様子



自己紹介で入力した内容
(上部の空白部分には名前が入ります)

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

取り組みやすい手段を使って「伝える」「伝わる」経験を重ねることで、様々な人と関わりたいという思いにつながってきたのではない。

・エビデンス(具体的数値など)

【1】「朝、帰りの会の司会を一人で行う」から

…司会をするために端末を貸してほしいと伝えたり、自分で端末を探すことも見られた。

●昨年度からの取り組みから改善を行うことで、対象児が会の司会をする日を担任が忘れていた時、「みどり」(端末のカバーが黄緑色をしているため)とその日の司会は対象児自身であることを担任に伝えることもあった。また、別の日では、端末を入れていたかばんから勝手に端末を取り出し、アプリを立ち上げて司会の準備をすることもあった。このことから、昨年度以上に会の進行に対して責任をもって積極的に行うようになってきているといえるのではないかと考える。

【2】「ふりかえりをみんなに伝える」

…授業のことから、次やってみたいこと、昼休み遊んだことなど内容に広がりが見られるようになった。

●対象児がふりかえりを発表する時、クラスメートからどっと笑いが起こったり、「へーそういうことを考えていたんや」という感想をもらう時もあった。その様子を見て対象児も、クラスメートと一緒に笑うこともあった。対象児も好きな手段で伝えることができ、またクラスメートからの反応もあり、伝える内容が授業のことから、今度したいことや、友だちと昼休みに遊んだことを発表するなど内容に広がりが見られるようになった。

【3】「家での様子をみんなに伝える」

…猫を伝える内容から、誕生日やお手伝いを宣言する内容、さらには体調を伝える内容と広がっていった。

●取り組み開始当初は、猫の様子を伝える内容で猫の写子を掲載していた。だが、その内容でもクラスメートは興味をもって見て、感想を対象児に伝えることもあった。そのようなことを続ける中で、運動会の練習時の感想や、誕生日を迎え楽しい様子を伝える内容や、野球盤を買ってもらうためにお手伝いをすることを宣言する内容、学校ではほとんど見られないしんどいことを伝える内容と多岐にわたるようになった。

<p>誕生日</p>  <p>・ たのしい14歳</p>	<p>ザベースボール</p>  <p>・ ザベースボール ・ 対戦 ・ ママ買う お手伝いします</p>	<p>学校やすむ</p>  <p>・ しんどい ・ ひどい ・ 薬飲む</p>
<p>「たのしい14歳」と入力した内容 (2016年12月)</p>	<p>「お手伝いします」と宣言した内容 (2016年10月)</p>	<p>「しんどい」ことを伝える内容 (2016年12月)</p>

【4】12月での居住地校交流での活用

…50人以上が参加した「クリスマス会」で自己紹介をすることができ、さらに参加者からのクイズに答えることができた。

●居住地校交流に向けて自己紹介の練習を行うことで、50人以上の学校外の児童生徒が参加した交流で自己紹介をすることができた。

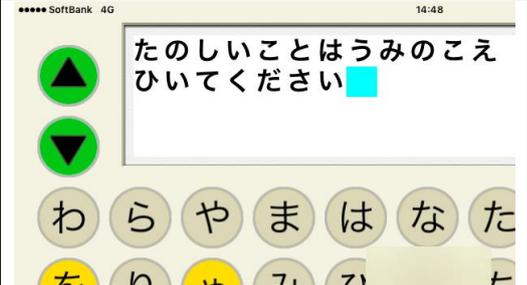
●さらに、クイズ大会で「動物園にいる動物の中で人気のある動物2匹はなに？」という問題が出題された時、私が「何か答えてみたら？」という時、「ぱんだとらいおん」と入力し、参加者の前で答えることができた。それを聞いた参加者から「すげー」「へー」という驚きの声が上がリ、その様子を見ていた対象児はうれしそ

うな顔をしていた。



・その他エピソード(画像などを含めて)

●現在では、ふりかえりで授業中に行ったことを発表する時から、授業中や、給食時の要望を伝える時での活用など、様々な場面で自分から伝えようとするが増えてきた。対象児にとって iPad が自分の思いを伝える手段となってきたものではないかと考える。

		
作業学習中に入力したもの (2016年12月)	給食時に入力したもの (2016年12月)	授業中に歌った曲をもう一度聞きたい ときに入力したもの(2017年1月)